

2022年3月29日



各 位

会社名 株式会社 IMAGICA GROUP
 代表者の役職氏名 代表取締役社長 布施 信夫
 社長執行役員
 (コード番号：6879 東証第一部)
 問合わせ先 取締役常務執行役員 森田 正和
 TEL 03-5777-6295

業績予想の修正及び特別損失の計上見込に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2021年12月24日に発表いたしました2022年3月期通期連結業績予想を下記のとおり修正いたします。また2022年3月期決算において、特別損失を計上する見込みとなりましたので併せてお知らせいたします。

記

1. 2022年3月期通期 連結業績予想の修正 (2021年4月1日～2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	77,000	2,000	2,500	2,500	56.32
今回修正予想(B)	80,000	2,800	3,200	1,800	40.55
増減額(B-A)	3,000	800	700	△700	△15.77
増減率(%)	3.8%	40.0%	28.0%	△28.0%	△28.0%
(ご参考)前期実績 (2021年3月期)	86,727	△1,084	△1,343	3,454	77.89

修正の理由

売上高については、懸念していたオミクロン株による業績への影響が軽微であり国内・海外共に動画配信事業者向けのE2Eサービスが引き続き好調に推移していることに加え、音楽ライブ収録やCM制作の受注も好調なことから、前回発表値を上回る見込みとなりました。

営業利益、経常利益については、売上好調により売上総利益が増加したこと、映像制作サービス事業における構造改革の効果等、固定費の減少によって、それぞれ前回発表値を上回る見込みとなりました。

一方で親会社株主に帰属する当期純利益については、のれん等の減損損失8.3億円と固定資産の減損損失4.5億円など、約14億円を特別損失に計上することにより前回発表値を下回る見込みとなりました。

なお、2021年12月24日に発表した配当予想については、1株当たり10円から変更はありません。

2. 特別損失の計上見込みについて

当社の連結子会社である PPC Creative Limited（以下、PPC）は、新型コロナウイルス感染症拡大によって 2020 年から 2021 年上期において劇場公開作品の予告編制作事業が苦戦いたしました。足元においては劇場再開に伴い受注が回復傾向にあるものの、今後の計画を慎重に見直した結果、当初想定していた収益の確保が難しいと判断し、当第 4 四半期連結累計期間において、同社に係るのれん等の減損損失 8.3 億円（概算金額）を特別損失に計上する見込みとなりました。

なお、PPC が属する映像制作サービスセグメントにおいては、連結子会社である Pixelogic Holdings LLC が手掛ける動画配信事業者向けのローカライズサービスやデジタルシネマサービスの業績が好調に加え、国内の IMAGICA エンタテインメントメディアサービスも順調であり、セグメント全体として大幅な増収増益を達成する見込みです。

上記に伴い、当社は個別決算において関係会社株式評価損として 6.9 億円（概算金額）を特別損失に計上する見込みとなりました。なお、関係会社株式評価損は連結決算において消去されるため、連結損益計算書における影響はありません。

また、当社グループが保有する一部の固定資産（ソフトウェアなど）について、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき将来の回収可能価額を検討した結果、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、4.5 億円（概算金額）を特別損失に計上する見込みとなりました。

（注）上記の業績予想数値は、現在時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な変動要因により異なる結果となる可能性があります。

以 上